

Course number		U-LAS53 10005 LJ31					
Course title (and course title in English)	地理と古典を活かした京都の旅の創造,提案B The creation and suggestion of travels in Kyoto by utilizing geography and classical literature B			Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Education Professor,HATTORI KENJI	
			Part-time Lecturer,ANDOU TETSUROU				
Group	Career Development			Field(Classification)		Community Collaboration	
Language of instruction	Japanese			Old group		Number of credits 2	
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters	2024・Second semester	
Days and periods	Wed.4		Target year	All students		Eligible students	For all majors
[Overview and purpose of the course]							
<p>京都は、長く日本文化の中心としての役割を担ってきた都市であり、どのように形成されてきたか歴史地理的に理解することは、日本文化の理解に通じると言っても過言ではない。その意味で、京都大学の学生にとって京都の歴史地理を理解することは、グローバルな世界へ飛び立つための重要なステップであると考えられる。</p> <p>さらに、京都の歴史地理の理解を深めるため、受講生に学んだ内容に裏付けられた旅を創造してもらい、京都にある大学としての地の利を活かしつつ実践してもらいたいと考えている。</p> <p>また、京都の旅には、それ自体にも大きな意義がある。現在の京都は世界の観光地のなかでも高い評価を受けるなど、グローバルな観光都市として機能している。近世以降、京都の旅は、都としての京都を意識しつつ洛中洛外を回るプランが出されていくが、現代においてもこの視点は重要であろう。京都や日本文化の理解という点はもちろんながら、京都の現代的課題に向かっていくためにも、京都の歴史地理的な理解に裏付けられた現代ならではのプランを創造して提案し、実践の中から京都の今を見つめ、課題解決の糸口を見い出してもらうことを目的とする。</p> <p>本講義では、まず10回程度京都の歴史地理に関する講義を行いたい。足利健亮編『京都歴史アトラス』や京都市編（林屋辰三郎責任編集）『京都の歴史』等を参考としつつ、通史的な歴史地理の理解を目指す。受講生が、講義内容を活かした学習的な旅、すなわち京都の歴史地理や文化を学ぶ取ることのできる内容の旅を創造し、自らのプランに基づいて旅（フィールドワーク）を行うことが肝要である。そのような「生きた素材からの学び」を、本講義を通じて提案したい。</p>							
[Course objectives]							
<p>歴史地理的教養を実社会に活かすことが大きな目標であり、必要な知識を獲得し、これを活かした旅の創造・提案（・実践）という形で応用できるようになることを到達点としたい。</p> <p>さらに本授業科目では、以下のように培うべき能力を設定し、その養成をも目標とする。</p> <p>責任力）京都の魅力ある旅を提案することによって、訪れた人々に満足してもらえ、再び訪ねたいという意識をもってもらうことに対して、主体的・積極的に関わろうとする態度。</p> <p>俯瞰力）地理や古典から京都を見つめることにより、京都に対する複眼的な見方や新たな魅力の発見ができるようになり、京都を今後も持続可能な「旅の目的地」として、かつ日本文化の中心的な発信地として捉え直すことができる力。</p> <p>創造力）京都の町の形成過程や構造、空間認識等に関する先進的な「知」を活用して、新しい旅のプランの創造ができる力。</p> <p>現場力）創出された新しい京都の旅のプランを実際に提案することが可能になるよう、自らコースを回る実践を行い、その際に見つけた問題点などを解消して、実行可能なものとする力。</p> <p>協働力）<u>創出し、実行可能な形となった新しい京都の旅のプランを授業の参加者同士で議論しあい、</u></p>							
Continue to 地理と古典を活かした京都の旅の創造,提案B(2)							

その議論を活かしながら、実現へ向けて形づくることのできる力。

[Course schedule and contents]

まず、京都の町の形成過程や構造、あるいは空間認識について歴史地理的に理解する。その際、古代・中世の京都を中心に扱うこととし、様々な地図・絵図・史料に加えて、京都を舞台として作られた古典を用い、複眼的な理解へつなげる。その後、その理解を活かしながら、学生が新しい京都の旅のプランを創造し、それをもとに議論を行う。

また、冬期休暇や後期終了後の休暇を使ってフィールドワークができることを期待して、冬に回ることのできる旅のプランを考えてもらうことを念頭におく。冬の京都は底冷えのする寒さゆえに回りにくくなる時期であり、創造したプランを京都の将来のために活かす可能性があることも、冬を対象にする意味があると考えます。

尚、前期には、近世・近現代を中心とし、また夏の旅のプランを考える講義を行う予定である。こちらでも受講を歓迎する。

< 各回の予定 >

- 1 歴史地理的なフィールドワークと社会調査の方法 世界文化遺産を例に
- 2 洛中と洛外の世界 『洛中洛外図』にみる近世初期の京都
- 3 戦乱と失われた京都
- 4 中世の京都 室町時代の京都の都市と経済活動
- 5 鎌倉・南北朝時代の京都
- 6 中世都市への変化 町の構造の変遷
- 7 旅のプランに関するグループワーク(1回目・プランの討議)
- 8 説話にみられる空間認識 京内と京外の異なる認識
- 9 平安貴族の空間認識 貴族の抛り所としての平安京
- 10 平安遷都・平安定都 「万代宮」となるまでの過程
- 11 遷都以前 京都の地層
- 12 京都と旅 「修学旅行」からの視点
- 13 京都はなぜ千年続いたのか? 京都の課題を考える
- 14 旅のプランに関するグループワーク(2回目・プランの再検討)
- 15 フィードバック(レポートの講評、フィールドワークへ向けたアドバイス)

予定の変更や順番が入れ替わる可能性がある。

フィードバック回には、提出課題にコメントを添えて返却するので、出席すること。

[Course requirements]

京都の町に興味・関心があること

(現時点で知識が少ないという人でも授業の理解は十分可能なので、幅広い学生の受講を歓迎する)

ただし、高校で日本史または地理のいずれかを受講していない場合、その受講していない方に関連する科目を受講しておくことが、本科目での理解を深めることになるので、お勧めする。

また、担当者が撮影した写真や考案した旅のルートなども提示するので、フィールドワークに関心のある学生に資する部分もあると考えている。

[Evaluation methods and policy]

到達目標を達成するため、以下の2つの課題について、提出を求める。

- ・ 京都の歴史地理に関するレポート(50%)

旅のプランを創造するに当たって、基本となるべき知識を十分に得て、複眼的な見方が可能とな

地理と古典を活かした京都の旅の創造,提案B(3)

るような理解の仕方ができるかどうかを確認する意味で、レポート提出を求める。テーマや字数、提出時期等については、授業中に提示する。

- ・ 京都の（冬の）旅プラン創造と議論への参加（50％）

京都の歴史地理や京都を題材とした古典を活かした旅のプランを創造する。後期の授業では、主に冬の旅のプランづくりに取り組むこととする。

また、受講人数によっては議論を行う場を設ける。提出方法等については、レポートと同様に授業中に提示する。

尚、出席が著しく不足する場合は単位認定が難しくなるので留意すること。

[Textbooks]

Not used

適宜プリントを配布する

[References, etc.]

（References, etc.）

足利健亮編 『京都歴史アトラス』（中央公論社）ISBN:978-4120023613

京都市編（林屋辰三郎責任編集）『京都の歴史1～10』（学芸書林）

秋山國三、仲村研 『京都「町」の研究』（法政大学出版局）ISBN:4588250078

[Study outside of class (preparation and review)]

- ・ 予習としては、授業で地形図を配布する機会があるので、これを読むことに慣れておくこと。
- ・ 復習としては、授業で提示した史跡・寺社などについて補足となる事項を調べたり、足を運べる場合には直接出向くことなどを通じて理解を深めること。

[Other information (office hours, etc.)]

出席カードを配布し、毎回意見や感想を記入できるようにするので、積極的な記入を期待する。回答については、次回授業の最初に行う。

また、授業後しばらく講義室にいるので、質問がある場合は直接尋ねることが可能である。

授業に関連したフィールドワークが企画されることもあるが、これに参加する場合は、学生教育研究災害傷害保険への加入が必要となる。この場合、実習に係る費用は受講生の負担となる。